

一般社団法人大学コンソーシアム熊本第34回理事会 議事録

- 1 開催日時 令和4年3月22日(火) 16時00分～17時25分
- 2 開催場所 オンライン会議 (Zoom)
- 3 出席者

代表理事(会長)	小川 久雄	熊本大学長
代表理事(副会長)	中山 峰男	崇城大学長
代表理事(副会長)	竹屋 元裕	熊本保健科学大学長
理事	細江 守紀	熊本学園大学長
理事	半藤 英明	熊本県立大学長
理事	甲斐 広文	熊本大学副学長
監事	山縣 ゆり子	尚絅大学・尚絅大学短期大学部学長
監事	尾原 祐三	熊本県立技術短期大学校長

4 開 会

(1) 開会

事務局(松村事務局長)から、本日の理事会に現在の理事6名中6名(監事2名出席)の出席により、定款第32条に定める定足数(理事現在数の過半数)を満たし、理事会が成立したことを宣言した。

(2) 会長(議長)挨拶

会長(議長:小川学長)からの挨拶のあと、本日の理事会は、①規則改正について、②中期計画進捗状況・評価について、③令和3年度予算執行状況について、④令和4年度事業計画及び収支予算(案)について、⑤令和4年度の運営体制について、が主な議題であることが宣言された。

(3) 議事録の確認及び議事録署名人の指定

議長から、資料1の一般社団法人大学コンソーシアム熊本第33回理事会議事録に議事録署名人の署名捺印を頂いたことの確認及び報告のあと、定款第33条及び理事会運営規則第12条の定めにより、本日の議事録署名人は小川代表理事(会長)及び山縣監事、尾原監事が行うことの説明があった。

5 理事会議事

第1号議案 規則改正について

事務局長から、資料2-1、資料2-2に基づき、今回の規則改正の説明があり、資料2-1の「大学コンソーシアム熊本における施設・設備等の共同利用に関する取決め(案)」については、今回、熊本保健科学大学から共同利用可能な施設追加の依頼に基づくもの、資料2-2の「一般社団法人大学コンソーシアム熊本理事会運営規則の一部改正(案)新旧対照表」については、理事会の開催通知を電子メールでの通知を可能とするものとの説明があった。

審議の結果、資料2-1～資料2-2の規則改正(案)は承認された。

第2号議案 中期計画進捗状況・評価について

事務局長から、資料3-1に基づき、中期計画の進捗状況における評価の概要、仕組みについての説明、資料3-2に基づき、各部会、企画・運営委員会で承認された

評価結果についての説明の後、全体評価（案）について説明があった。

次いで、議長より、「おてもやん総踊り」に関しては、コンソが主体のイベントではないため、これが中止になることで、最低評価になることには疑問があること、また、江津湖清掃についても、場所を予め特定していることが気になり、企画・運営委員会においてもこの2つの項目は見直しの意見がでたとのことなので、理事会からも企画・運営委員会に取組概要の見直しについて、検討をお願いしたいとの発言があり、以下のように、まず、甲斐理事（企画・運営委員長）から意見を求めて、その後、その他の取り組みも含めて理事・監事による以下の意見交換があった。

【各委員からの意見・質問等】

（意見/甲斐理事）「おてもやん総踊り」のように事業が特定されているものは、先方の事業が中止になったために評価できないという事態が生じており、評価に耐えるような目標・計画に変更したい。今後もお祭り等や、環境整備活動も様々な活動等で、広くとらえられるような目標・計画に変更したいと考えている。

（意見/尾原監事）課題「国際交流の活性化」の目標に「留学生の受け入れ体制強化、留学生数増加に向けた誘致戦略の検討、留学生受入数 1,000 人」というのがあるが、これに対する「課題を解決する取組」が、これらの目標を本当に達成するための取り組みになっているか。入学している留学生に対する取り組みは、十分なされているが、留学生を誘致するような取り組みが非常に少ないと思う。熊本の大学に入ってくる留学生は学部の学生が多いのか、大学院生が多いのか、どこを狙った取り組みを行っていくのか、そのような取り組みを入れた形で今回、見直されるということなので、留学生を受け入れるための取り組みを、一つか二つかいれてもらえたらと要望する。

（質問/小川議長）留学生受入数 1,000 人というのは達成できそうな数字か。

（回答/事務局長）現在、少なくなつて、今年度が 620 名（昨年度 5 月時点）なので、相当頑張らないと 1,000 人というのは難しい。

（質問/小川議長）目標 1,000 人というのはどうするか。

（意見/尾原監事）目標を高く掲げるというのはとても大事だと思う。それに向かって各大学がどういうふうなアプローチを行っていくか、そのアプローチにコンソからサポートしながら取り組みを行っていくという方法がいいのかなと思う。

（意見/中山副会長）留学生を多く受け入れようという話は熊大が谷口学長の時に出てきた話で、福岡だと 5,500 人、大分で 4,000 人、長崎でも熊本より大学の数は少ないが 1,500 人を目標にしている。そのため、熊本は最低でも 1,000 人は留学生をいれないと国際都市といえないのではという話だった。大学院生の留学生を確保するというのは熊本大学以外ではなかなか厳しいので、学部の留学生を増やさないと留学生は増えないということで、日本語学校にもアプローチしながら熊本に留学生を誘致しようとしてきた経緯がある。

（意見/小川会長）それなら 1,000 人を目標に頑張っていきたいと思う。

（甲斐理事）毎年 1,000 人ではなく、在籍数のトータルで 1,000 人である。今年度の「国際交流の活性化」の取組 3 の新しい取り組みとして、中国の高校生向けのオンライン進学フェアに参加し、最大 19,000 人が視聴するなど、今後、学部から留学生を受け入れるということに効果が期待できるものがある。

また、取組 4 の「多言語による情報発信」でもコンソのホームページの内容を充実させてきており、来年度以降、どういう効果があるかみておく必要がある。

(質問/半藤理事) 評価の考え方について確認をしたいが、「おてもやん総踊り」、「江津湖清掃」が中止になったので、その評価がなかなか、しばらくところがあったが、事業計画はコンソが主体的に実施するものについては、中止の場合は悪い評価になるかもしれないが、行政や諸々の事情で中止になったものについては、コンソとしては不可抗力のところがあるので、それによって悪い評価というのは適当でないのでは、つまり、不可抗力で達成できなかったものは「判定不能」、つまり評価できないという評価の仕方でも良いのではないか。

(意見/小川学長) おてもやんについては「判定不能」としたい。

(質問/竹屋理事) 自己評価全体でBとしてあり、評価理由で「S評価1」とあるが、「2.地域の行政や産業界と連携」の「地域創造部会・新規事業」3件がS評価となっているがこれはカウントされないのか。

(回答/事務局) 中期計画の活動指標として設定していたのが15の取組であって、地域創造部会の新規事業については、2019年に策定した15項目に基づく活動指標自体がないため、ここでは活動指標があるものについてのみ表記している。

(質問/尾原監事) 中国の高校生向けの進学オンラインフェアは、19,000人も参加しているが、日本語が理解できる高校生が聞いてくれたと認識しているか。

(回答/事務局長) 中国の高校生に対しては、コンソ事務局からは日本語で説明し中国語に通訳して説明した。熊本学園大学と東海大学は中国語での説明であった。日本語を勉強している高校生も一部いると思うが、全員が日本語で理解できているという確約はとれていない。

(質問/尾原監事) 学部として受け入れようとしている留学生は日本語ができる方なので、そのあたりをしっかりと話をしながら、多くの方が聞けるような仕組みが必要と思う。コロナ禍で大変な状況で、これだけの方が聞いているので、そのあたりをもっと精査して、うまくターゲットを絞って実施いただけたら良いと思う。

(意見/甲斐理事) 民間企業主催ということで、初めて参加してみたが、こういう試みはすごくいいと思う。外国の高校生がこういうイベントに参加して日本の大学に興味を持って、日本語学校に入って、それから日本の大学入学を希望するという、一つの流れが生まれるのではと我々は解釈している。

審議の結果、資料3-1～資料3-2の中期計画進捗状況・評価について(案)は、理事会の案として、5月の社員総会に提案することが承認された。

第3号議案 令和3年度の予算執行状況について

議長から、事務局からの説明の前に以下の発言があった。

- 1) 今年度の予算の執行状況については、前回の理事会でも事務局から説明させていただき、執行に関し、尾原先生と細江先生にご指摘・ご意見を頂いた。
- 2) 第6回企画・運営委員会において、議長である甲斐委員長から、第3回理事会で予算執行に関し注意を受け、予算の流用に関するルールを策定するよう意見があった旨の報告がなされた。
- 3) 予算の流用に関するルールについては、現在事務局の方で原案を作成中であり、企画・運営委員会で議論いただく予定にしている。
- 4) なお、本日は、本年度の予算について、少額ながら予備費を使用する可能性があるということで、予備費を費用する場合は、コンソの会計処理規則において、予め理事会の承認を得ることになっていることから、議案としてお諮りするもの。

引き続き、事務局長から資料4「収支計算書(令和3年度収支報告書)及び、資料

5-1「令和4年度事業計画及び予算額(案)」の令和3年度見込額欄により、令和3年度予算執行状況について説明があった。

特に、単年度の収支見込みでは、黒字(531,412円)の見込みだが、予算上は収支同額で予算を組んでおらず、当初予算では収支差額(579,600円)については予め予備費に組み入れている。その差額(48,188円程度)が予備費からの支出となる見込みのため理事会で審議願いたい旨の説明があった。

次いで、議長から、昨年度末の理事会と今年度の社員総会において、令和3年度予算に関しては、予備費を使わせていただく事がありうるということを説明し、了解いただいていたということであり、今回、予備費の使用の可能性が出てきたので、改めて承認いただきたいとの発言があり、以下の意見交換があった。

【各委員からの意見・質問等】

(意見/尾原監事) 予備費として使う金額としては問題ないと思う。

(小川会長) 予算内で執行することは、どのような組織でも当然の事かと思う。事務局においては、今後は執行に際しては細心の注意を払って執行願いたい。最終的には、どのくらいの赤字がでるか確定している訳ではないが、当初予算を例年よりも縮減していたということもあり、赤字が出た分については予備費を使うしかないで、私としては認めるしかないと思うがいかがか。

審議の結果、令和3年度の予備費の使用については承認された。

第4号議案 令和4年度事業計画及び収支予算(案)について

事務局長から、資料5-2により、令和3年度の予算執行状況についての説明があり、その後、資料5-1により、令和4年度事業計画及び収支予算(案)について、以下の説明があった。

【資料5-1の2枚目以降による令和4年度事業計画及び収支予算(案)の詳細説明】

(1) 管理費について

1) 「事務局運営費」

人件費(給与手当)は事務局次長が令和3年度のコンソ雇用から、来年度は崇城大学から出向いただける予定のため、この分の人件費(給与手当)が不要となり計上していない。(前回の理事会で諮ったコンソ雇用での内定者は辞退)

(2) 「企画・運営委員会」

今年度掛かった経費と同程度の金額を計上した。

(3) 「学生教育部会」

1) 「進学ガイダンスセミナー事業」

現在のところ、当事業委員会により、崇城大学での会場開催と、場合によっては、会場とオンラインでの併用開催の可能性もあるということであり、併用開催ができるように、若干増額して計上した。

2) 「学生交流推進事業」

今年度は、すべてオンライン開催だったので、費用はかからなかったが、来年度は対面での開催として金額に関しては今年度と同額を計上した。

3) 「インターンシップ連携事業」

来年度に関しては、現場での実習ができるか不透明だが、オンラインとなった場合を考慮し、今年度同様に、学生に情報提供するために、webサイトの活用経費を計上するが、成果報告会はホテルではなく大学の会場を借りて開催することとし、総額としては、今年度予算と同額とした。

4) 「FD・SD」

講師委託料として、今年度と同額を計上した。

(4) 「国際交流部会」

1) 「留学生支援事業」

ワンストップ窓口担当コーディネーターが派遣職員からコンソの直接採用に代わるため、その分の人件費を給与手当と法定福利費として計上し、その分、委託費が1名分減額となった。

また、留学生ワンストップ窓口（熊本市の国際交流会館の2階）は事務局に一元化し、国際交流会館の賃貸料や通信に係る経費を4年度は計上していない。

その他、イベント等の実施に係る消耗品費を増額し、また、留学生支援事業については、熊本県、熊本市との合同事業であるということを念頭に予算建てした。

なお、令和2年度から地域創造部会の予算から国際交流部会に事業になった「おてもやん総踊りの参加に係る経費」も見込む。

2) 「留学生のための“学モン都市クマモト” ツアー」

来年度も今年度と同じくオンラインでの開催を計画しており、また、福岡だけでなくその他の地域の日本語学校への訪問と進学説明会等への参加を計画し効果的なPRを行う。

3) 「多言語による情報発信」

日本語学校へのPR強化のため、リーフレットの増刷と、多言語版のホームページの改修を引き続き計画し、海外から直接アクセスして得られる各大学の情報等や熊本の情報サイトへのリンクを増やすなど、魅力的な広報につなげるため、更なるホームページの改修のための経費を計上した。

4) 「熊本市営住宅入退去管理」

例年と同額を計上した。

(5) 「地域創造部会」

1) 「環境整備活動」

中期計画では、江津湖清掃となっているが、新型コロナの影響や、真夏の開催等の安全面も考慮し、委員会の意見も聞きながら場所及び時期の選定を行うこととし、今年の実績の倍程度の予算を計上した。

2) 「男女共同参画推進連携事業」

今年度同額の予算を計上した。

3) 「障がい学生支援連携事業」

今年度同額の予算を計上した。

4) 「熊本を深く知るための企画事業」

今年度同額の予算を計上した。

5) 「地域課題解決のための企画事業」

本年度の実績額を勘案しながら、予算建てした。

(6) 「教員免許状更新講習・教員養成等事業」

来年度は、教員免許状更新講習は全大学不開講のため、予算計上はしない。

【引き続き、事務局長から、資料5-1の1枚目及び資料5-3により、以下の全体説明】

(1) 支出予算の総額としては、今年度比3,328,927円マイナスの28,575,000円としている。

(2) 管理費については、事務局次長の人件費が不要となる見込みのため、その分を含め、トータルとして223万円程度減額とした。

- (3) 事業活動支出の合計では、今年度の支出予算 19,144,000 円に対し、令和4年度は 14,171,000 円とし、昨年度比 4,973,000 円減として予算を組んだ。
- (4) 収入に関しては、会費収入は、39,800 円の減、事業収入は、教員免許状更新講習の不開講により、その分の収入が見込めない事から、3,828,000 円の減、補助金等収入については、留学生支援のための熊本県・熊本市からの補助金を今年度と同額を計上した。
- また、雑収入については、事務負担金として、例年、私立大学等改革総合支援事業に採択された大学から、1 機関当たり 100 万円を負担いただいております、令和3年度は、2 機関が採択のため、200 万円を計上し、令和4年度の事業活動収入に関しては、15,855,000 円を計上した。
- (5) 資料5-3の3ページ目の「令和4年度大学コンソーシアム熊本予算(案)」の収入予算 15,855,000 円に今年度の繰越金が 12,720,000 円程度見込まれるので、来年度の収入の合計は 28,575,000 円、これに対し、来年度の支出予算が、14,171,000 円。支出の合計と収入の合計は同額の 28,575,000 円とし、その差額を全額予備費に組み入れるので、予備費の額を 14,404,000 円とした。

以上の説明の後、議長より、コンソの来年度の予算についての説明は以上であり、意見・質問がないかの発言があり、以下の意見交換があった。

【各委員からの質疑・意見等】

- (質問/尾原監事) 令和4年度予算を組まれたときに、今年度のマイナスが生じた事業、例えば、国際交流部会の「多言語による情報発信」が16万円の予算に対して46万円の赤字で、来年度予算は64万円に上げてあり、地域創造部会の「地域問題解決のための企画事業」は15万円の予算に対して22万円の赤字なので、来年度は41万円に上げてある。また、「投資活動支出」は令和3年度は予算計上していなかったが、パソコン購入で24万円の赤字になっていたが、来年度はゼロになっており、これらは、令和3年度の実績で考えているのか、その辺がよくわからない。例えば「多言語による情報発信」はまだホームページが充実されていないからと437,000円要求されているが、令和3年度は39万円ほど使われている。それ以上に来年度また沢山予算をつぎ込むという、その予算の考え方はどういうふうに考えればいいのか。
- (回答/事務局長) ベースとしては、今年度実績をもとに考えてはいる。
- (質問/尾原監事) それはわかるが、令和3年度である程度出来上がっているものに対してまた同じ金額を入れ込むという、その考え方はどこにあるのか。
- (回答/事務局長) 多言語版があまり出来ているという状況にないのではと考えている。
- (質問/尾原監事) それはどこが判断しているのか。部会はどう考えているのか。令和3年度で64万円赤字出したから令和4年度も同額を計上すればいいというイメージにとれる。その辺が本当にこれでいいのか。来年度予算が本当にこれでいいのか、部会で議論されたものがでてきているのか、疑問に感じるところがある。あと地域課題解決のための企画事業が予算15万円が大分赤字になっているので増やしておこうかという、その辺の議論が部会でちゃんとなされているのか。
- (回答/事務局長) 部会にはあげて議論いただいている。
- (質問/尾原監事) 査定はどのようになるのか。それは理事会で行うものか。
- (回答/事務局長) 査定は理事会になる。部会としては要求している形になる。

(質問/尾原監事) 企画・運営委員会で査定されたものが理事会に上がってくるという仕組みではないのか。

(回答/事務局長) 仕組みとしては、一旦、企画・運営委員会で審議いただいている。

(質問/尾原監事) それでは、企画・運営委員会で了承されたということか。

(回答/事務局長) そうだ。

(質問/尾原監事) そういう意味では企画・運営委員会で議論もされたということだと思うが、そのあたりが、令和3年度の大きなマイナスに対してどういうふうを考えて、令和4年度のこの部分が組まれているかが、よくわからなかったのも、そこは、やはりしっかり、去年のことがあるので、やはりこの予算はきちりと考えたものを出してこないとまずいんじゃないかと思うが。しかし、ちゃんとしたプロセスを踏んでいるので、いいかと思う。

(意見/小川議長) 一応、プロセスとしては、各部会の意見はきいているということなので。

(回答/事務局長) 部会の方で審議して、その後に、企画・運営委員会で諮りいただいているというところではある。

審議の結果、令和4年度事業計画及び収支予算(案)については承認された。

第5号議案 令和4年度の運営体制について

事務局長から、資料6-1、6-2により以下の説明があった。

(1) 令和4年度の役員体制については、前回の理事会での承認のとおり、熊本県立大学の半藤理事におかれては、5月の理事会までは引き続き理事をお引き受けいただき、5月末の社員総会において、4月に熊本県立大学の新学長にご就任予定の堤先生に理事に就任いただくことの説明があった。

(2) 令和4年度の事務局体制について、現在の事務局次長の後任の内定者もコンソ雇用ということで承認いただいていたが、本人が事情により辞退するとの連絡があり、後任として崇城大学から出向いただけることになったので、本日改めて承認いただきたい。

議長より、中山学長に貴重な人材を派遣いただくことに謝意が述べられ、来年度は4大学からの出向となる旨の発言があり、審議の結果、来年度の運用体制について特に異論はなく承認された。

第6号議案 その他

特になし

6 理事会報告

第1号報告 令和3年度各部会の実施事業について

事務局長から、資料7に基づき、今年度の活動状況について報告があった。なお、「第2号議案」にて、主な活動は説明済のため、報告書の作成について説明があった。

第2号報告 大学コンソーシアム熊本令和3年度成果発表会の開催について

議長から、前回ご了解いただいた、大学コンソーシアム熊本令和3年度成果発表会の開催について、内容については、私(会長)に御一任いただいていたこと、本日、ご出席の中山先生、また竹屋先生の両副会長の先生にもご了解いただき、資料の内容にて開催することとしたことの発言があり、その後、内容について、事務局長か

ら、資料8により以下の説明があった。

第3号報告 令和3年度共催及び後援名義使用の許可状況について

事務局長から、資料9により、今年度の共催及び後援名義使用の許可状況の報告があった。共催については企画運営委員会での審議を経て、また、後援の許可に際しては、過去にも実績のあるものについては事務局で確認のうえ、許可していることの報告があった。

第4号報告 その他

特になし

7 閉 会

議長から、本日の理事会につきましてはこれで終了させていただくが、今年1年、理事、監事の先生方には大変お世話になったこと、今年度は、結局、オンライン会議での開催となりましたが、来年度はぜひとも、一堂に会し、開催したいこと、来年度は、今年度以上にこのコンソの活動を活発化させるとともに、加盟全機関の連携・協力もますます進めていきたいとの発言があり、その後、半藤先生から退任の挨拶があった

以上で議事を終了し、議長は閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証するため、代表理事（会長）及び出席監事は、署名押印する。

令和4年3月22日

一般社団法人大学コンソーシアム熊本第34回理事会

代表理事（会長） 小 川 久 雄

監 事 山 縣 ゆ り 子

監 事 尾 原 祐 三